

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成28年5月12日(2016.5.12)

【公開番号】特開2013-236916(P2013-236916A)

【公開日】平成25年11月28日(2013.11.28)

【年通号数】公開・登録公報2013-064

【出願番号】特願2013-58315(P2013-58315)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F	7/02	3 0 6 D
A 6 3 F	7/02	3 4 6 C
A 6 3 F	7/02	3 0 1 C
A 6 3 F	7/02	3 3 4

【手続補正書】

【提出日】平成28年3月18日(2016.3.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

非磁性体として構成された遊技球である正規遊技球を用いて遊技を行う弾球遊技機であつて、

遊技者の操作に応じて遊技球を遊技領域に発射する発射装置と、

遊技球を前記発射装置に誘導する誘導手段と、

前記誘導手段に誘導される遊技球の中から、磁性体として構成された不正遊技球を検出する検出手段と、

前記検出手段により検出された前記不正遊技球を、前記発射装置に誘導される遊技球の中から取り除く除去手段と、

を備え、

前記誘導手段は、床部の両側に、下側壁部と、遊技球に混入された前記不正遊技球を磁力により付着させる上側壁部とが形成され、前記床部における前記上側壁部から前記下側壁部への下り傾斜により、前記正規遊技球を前記下側壁部に当接しながら流下させてことで、前記発射装置に誘導するよう構成された除去区間を有する誘導経路として構成されたこと、

を特徴とする弾球遊技機。

【請求項2】

請求項1に記載の弾球遊技機において、

前記除去区間は、

前記下側壁部に当接しながら流下する前記正規遊技球との衝突により前記上側壁部に付着した前記不正遊技球を流下させることができるように、前記上側壁部と前記下側壁部との間隔が調整されており、前記正規遊技球と共に流下する前記不正遊技球を前記上側壁部に付着させることで前記検出手段をなす上流側区間と、

該上流側区間の下流側に位置し、前記下側壁部に当接しながら流下する前記正規遊技球と前記上側壁部に付着した前記不正遊技球とが接触しないよう、前記上側壁部と前記下側壁部との間隔が調整されており、前記正規遊技球の流下を遮ることなく前記上側壁部に前

記不正遊技球を付着させておくことで、前記除去手段をなす下流側区間とを有すること、
を特徴とする弾球遊技機。

【請求項3】

請求項2に記載の弾球遊技機において、
前記不正遊技球が遊技に用いられないように収容する収容部と、
磁力により外側面に前記不正遊技球を付着させることができる無端ベルトを有すると共に、該外側面が前記下流側区間の前記上側壁部の少なくとも一部をなし、前記下流側区間に到達した前記不正遊技球を前記外側面に付着させ、前記収容部に向けて搬送する搬送手段と、
前記無端ベルトの前記外側面に付着した前記不正遊技球を剥離させ、前記収容部に移動させる剥離手段と、
をさらに備えることを特徴とする弾球遊技機。

【請求項4】

請求項1乃至請求項3に記載の弾球遊技機において、
前記弾球遊技機は、予め定められた数の前記正規遊技球を循環的に使用して遊技を行う封入式の弾球遊技機として構成されており、
前記誘導手段は、前記発射装置により前記遊技領域に発射された遊技球を回収すると共に、回収した遊技球を前記発射装置に誘導すること、
を特徴とする弾球遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0010
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0010】
このような構成によれば、磁性体として構成された不正遊技球が正規遊技球に混入された場合であっても、該不正遊技球は発射装置に誘導される前に取り除かれる。このため、不正遊技球を正規遊技球に混入させ、混入させた不正遊技球の挙動を磁石等により操ることで不正な入賞を得るゴト行為を行うことができなくなる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0011
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0011】
請求項2に記載の弾球遊技機は、除去区間は、下側壁部に当接しながら流下する正規遊技球との衝突により上側壁部に付着した不正遊技球を流下させることができるよう、上側壁部と下側壁部との間隔が調整されており、正規遊技球と共に流下する不正遊技球を上側壁部に付着させることで前記検出手段をなす上流側区間と、該上流側区間の下流側に位置し、下側壁部に当接しながら流下する正規遊技球と上側壁部に付着した不正遊技球とが接触しないよう、上側壁部と下側壁部との間隔が調整されており、正規遊技球の流下を遮ることなく上側壁部に不正遊技球を付着させておくことで、除去手段をなす下流側区間とを有している。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0012
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0012】
このような構成によれば、不正遊技球が検出された場合であっても、正規遊技球を発射

装置に誘導して遊技領域に向けて発射することができ、パチンコ店の従業員等が不正遊技球を取り除く等の作業を行わなくても、遊技者は遊技を継続することができる。また、該作業により遊技が中断することが無いため、弾球遊技機の稼働率の低下を防ぐことができる。また、仮に不正遊技球が混入されたとしても、閉店後等の時間の余裕がある時に不正遊技球を取り除く作業を行うことができ、パチンコ店の従業員は、慌てること無く、確実に不正遊技球を取り除くことができる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

また、請求項2に記載の弾球遊技機によれば、除去区間に到達した正規遊技球は、下側壁部に沿って当該除去区間を流下し、発射装置に誘導される。一方、除去区間に到達した不正遊技球は、上側壁部に付着した状態で上流側区間を流下すると共に、下側壁部に沿って流下する正規遊技球により押し出されるように下流側区間に到達し、下流側区間の上側壁部に付着した状態で保持される。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

そこで、請求項3に記載の弾球遊技機は、不正遊技球が遊技に用いられないように収容する収容部と、磁力により外側面に不正遊技球を付着させることができる無端ベルトを有すると共に、該外側面が下流側区間の上側壁部の少なくとも一部をなし、下流側区間に到達した不正遊技球を外側面に付着させ、収容部に向けて搬送する搬送手段と、無端ベルトの外側面に付着した不正遊技球を剥離させ、収容部に移動させる剥離手段と、をさらに備える。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

そこで、請求項4に記載の弾球遊技機は、予め定められた数の正規遊技球を循環的に使用して遊技を行う封入式の弾球遊技機として構成されており、誘導手段は、発射装置により遊技領域に発射された遊技球を回収すると共に、回収した遊技球を発射装置に誘導する。